

社長メッセージ

# 「世の中にないものは自分たちで創る」 という理念のもと、ものづくりを通して 社会への貢献を目指します。



代表取締役社長  
金子 雄二

## 2017年3月期の振り返りと課題

2017年3月期は、放電加工機、射出成形機ともに販売台数は前期を上回る結果となりましたが、為替レートが前期に比べ円高に推移した影響等により、売上高は前期比5.1%減の618億12百万円となりました。

利益面では、生産効率向上や調達コスト低減などが一部寄与しましたが、研究開発費や海外子会社での販管費の増加等もあり、営業利益は減益となりました。

地域別に見ると、国内は自動車、スマートフォン関連からの需要が見られましたが、2017年3月に採択された補助金待ちの影響もあり、期後半にかけて減速感が見られました。北米については、自動車、航空宇宙、医療機器関連からの需要が引き続き好調だったことに加え、エネルギー関連も回復の兆しが見られました。欧州は、ロシア、トルコ等では厳しい環境が続きましたが、全体では堅調な需要が継続しました。中華圏においては、自動車およびスマートフォン関連から高精度機需要の高まりを受け、高水準の受注が継続しています。アジアは、厳しい状況が続いていましたが、期後半には自動車関連を中心に回復の兆しが見

られたほか、スマートフォン関連で高水準な受注がありました。金属3Dプリンタは、2014年10月より販売を開始しておりますが、新しい生産技術であり、お客様が機械を導入するまで、ベンチマークテスト・評価などに想定以上の時間を要すること、また、中国およびアジア等への輸出申請の認可手続き等に時間を要することもあり、当初計画に対し進捗が遅れております。2017年3月期は、50数台の販売台数を計画しておりましたが、出荷台数は30台程度、うち約半数が外部販売となり、売上高については約8億円となり計画を下回る結果となりました。

### 2016年3月期、2017年3月期 実績

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	前期比
売上高	65,146	61,812	94.9%
営業利益	6,353	5,236	82.4%
経常利益	5,719	4,620	80.8%
当期純利益	4,167	3,644	87.5%

## 2017年12月期の見通しについて

2017年12月期は、昨年リリースした新製品群の販売増加を計画しているほか、放電加工機、射出成形機など既存事業の伸長を見込んでおります。また、機械販売の増加、量産効果により利益率の改善を見込んでおります。2017年12月期は、決算期変更に伴い、9か月間の変則決算となりますが、3月決算会社の2017年1-3月の業績を考慮した2017年1月～12月の調整ベースでは、前期に比べ実質増収増益を見込んでおります。

金属3Dプリンタ事業につきましては、中華圏、アジア向けの輸出申請についても一定の目途がついたことからグローバルでの販売を加速させます。また、昨年にリリースしました金属3Dプリンタで造形した金型専用の射出成形機「MR30」を併せて展開することにより、プラスチック金型成形市場でのプレゼンスを高めてまいります。2017年1月～12月までの販売台数は50台程度、売上高は25億円程度を計画しております。

### 2017年12月期 通期業績予想

(単位:百万円)

	2017年3月期		2017年12月期 (2017年4月～12月期:9か月変則)	
	実績	利益率	予想	利益率
売上高	61,812	-	55,800	-
営業利益	5,236	8.5%	5,300	9.5%
経常利益	4,620	7.5%	5,200	9.3%
当期純利益	3,644	5.9%	3,700	6.6%

2017年12月期 <sup>※</sup> (2017年1月～12月期)	
予想	利益率
67,900	-
6,900	10.2%
6,600	9.7%
4,800	7.1%

※比較参考のため2017年1月～12月の1年間に換算した数値を表記しています。

## 中長期的な方針と重点施策

工作機械事業については、ものづくりの高度化が見られる新興国マーケットを含め、全世界の高精度機需要を的確に把握し、市場ニーズを汲んだ製品提供によって、シェア拡大を図ります。金属3Dプリンタについては、まだ市場を創出する段階にありますが、金型製造リードタイムの短縮や生産コストの削減、成形サイクルの短縮を可能にする革新的な技術であり、中長期的な成長が期待できる製品だと確信しています。造形速度の向上、金属粉のラインナップの拡充など、研究開発をさらに進め、精密金属プリンタ分野のトップ企業を目指します。

産業機械事業については、射出成形機の国内市場シェアを10%に引き上げるため、ニーズの高い全電動射出成形機の販売を強化してまいります。エントリーモデルに加え、中小型機のラインナップを拡充し、全電動射出成形機市場における地位を確立します。また、アルミニウム射出成形機は、ダイカストマシンからの置き換え需要や、軽量化が求められる自動車部品やIT機器部品などの潜在市場の開拓が期待できます。海外について

は、海外売上高比率70%以上を達成すべく、スマートフォンのレンズ、シリコン成形機など、競争優位性のある高精度な成形分野での販売台数拡大を目指してまいります。

食品機械事業については、国内ではコンビニエンスストア、スーパーマーケットおよび外食チェーン向けを中心に、より高品質な麺の製造を目的とした設備需要が引き続き見込まれ、海外からもロングライフ麺や冷凍麺製造設備の需要が見込まれています。また、包装米飯・包装惣菜向け、製菓業界など製麺業界以外からのニーズを開拓し、将来の食品機械事業の柱に育てていきます。

現在、放電加工機、射出成形機は高水準な受注が続いており、受注残が増加しています。受注台数増加による機会損失を無くし、お客様からの納期要求にお応えするため、工場の生産能力の増強に取り組んでおります。特にタイ工場については第2工場を拡張し、生産能力を大幅に拡充する計画です。また、海外からの需要増加に対応するため、全世界における生産体制の再構築を進めてまいります。

## 持続的な成長に向けて

企業が持続的に成長していくためには、事業活動を通してステークホルダーに貢献していくことが求められています。

当社は研究開発型企業として、最高の製品を提供し、お客様の「ものづくり」をサポートすることによって、社会の発展に貢献することを経営理念としており、その実践こそが持続的な成長および中長期的な企業価値の向上に繋がるものと考えております。

従来より、「経営理念」「企業倫理憲章および企業行動基準」を

基軸とし経営を行ってまいりましたが、社会からの期待が高度化、多様化していることを踏まえ、企業の社会的責任を果たすことに加え、組織横断的にCSR活動を推進するためにCSR推進委員会を発足いたしました。

環境、社会、ガバナンスへの取り組みについても、一層強化し企業価値向上を図ってまいります。



## 配当方針について

成長投資と財務体質強化のバランスを見極めつつ、DOE（株主資本配当率）2%以上を目標とした安定的かつ継続的な配当を基本方針として、2017年3月期は、1株当たり年間配当金を19円とさせていただきます。

2017年12月期は、1株当たりの年間配当金は20円とし、1円の増配を予定しております。

なお、内部留保した資金の用途につきましては、今後の事業活動ならびに経営基盤の強化に有効活用していく考えです。

## 最後に

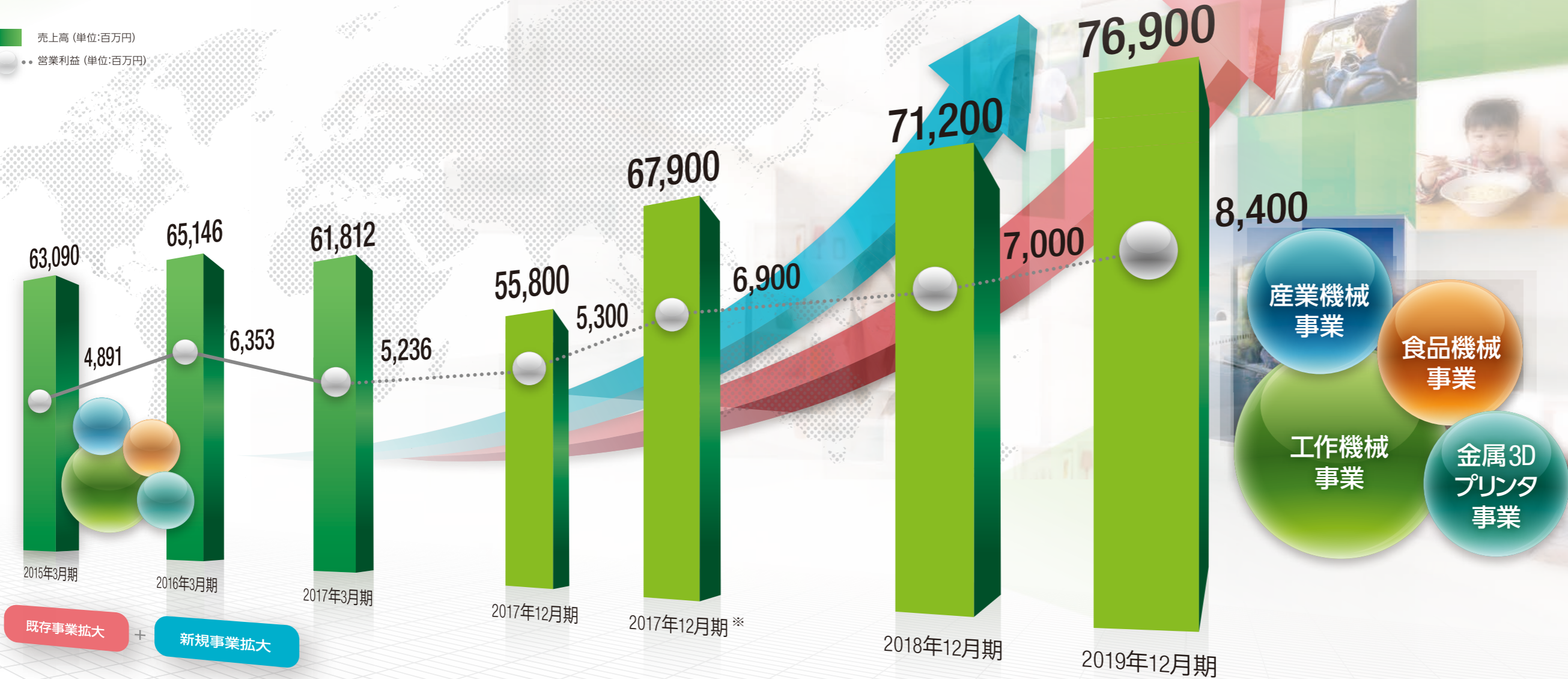
当社は、「世の中にないものは自分たちで創る」という理念のもと、自社技術をさらに向上させ、新たな製品群への応用開発を進め、ものづくりを通して社会への貢献を目指しております。

今後も、社名の由来でもある「創造」「実行」「苦勞・克服」を社是とし、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化に加え、ダイバーシティー経営の推進などにより多彩なイノベーションを生み出すことで、安定的かつ継続的な発展を目指してまいりますので、なお一層のご理解とご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

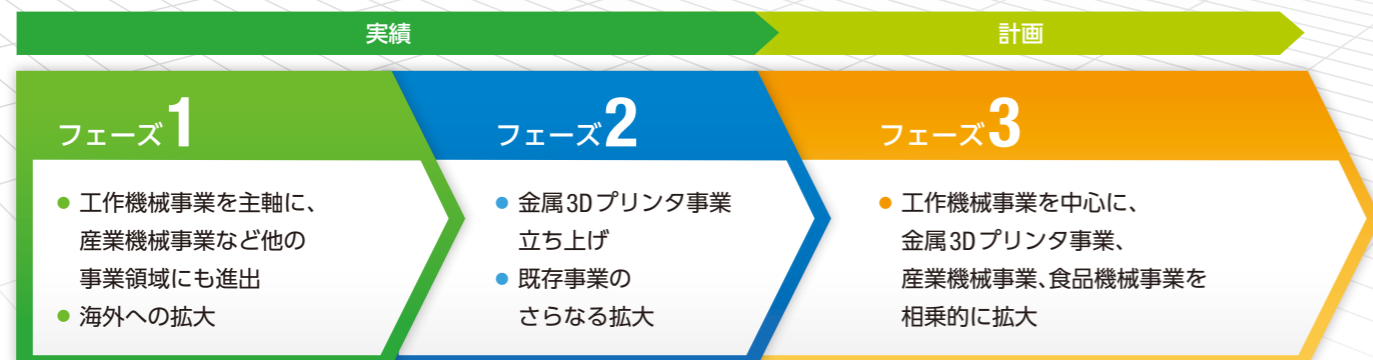
# 中長期戦略～さらなる躍進へ

既存事業の拡大を推進するとともに、  
継続的な業績拡大のため新たな成長ドライバーとして  
金属3Dプリンタ事業を育成していきます。

■ 売上高 (単位:百万円)  
●● 営業利益 (単位:百万円)



\*比較参考のため2017年1月～12月の1年間に換算した数値を表記しています。



金属3Dプリンタ事業を新たな事業の柱に据え、  
既存事業を相乗的に成長させていきます。

金属3Dプリンタの研究開発・販売をさらに加速し、早期に新たな事業の柱に成長させるとともに、ワンストップソリューションを活かした製品群の展開により、既存事業(工作機械事業、産業機械事業)の相乗的成長を図ります。

また、金属3Dプリンタの金属粉末のラインナップ拡充により、次世代自動車、航空宇宙、医療機器などの高付加価値部品の加工

まで裾野を広げ、当社のマーケットにおけるプレゼンスを高め、中長期的には精密金属3Dプリンタのトップ企業を目指します。

産業機械事業、食品機械事業では、グローバル展開を強化しマーケットシェアの拡大を図ります。

生産性向上、調達コスト削減により利益率を高め、2019年12月期までに、売上高769億円、営業利益84億円を目指します。

特集

01

SPECIAL  
FEATURE

# 感動の「安定成形」「高品質」を実践する Sodick の 精密射出成形機

## 自動車部品、スマートフォン等のハイエンド市場の需要に対応

射出成形機の用途は、自動車、IT、医療機器などあらゆる分野にわたり、近年の傾向としては、超精密な加工が必要とされる、いわゆるハイエンド市場における需要が堅調です。

とくに、車体の総重量の軽量化が燃費性能の向上に大きく貢献する自動車部品では、金属系材料からプラスチック材料へと代用が推し進められています。また、近年、コンパクトカメラやスマートフォン等で採用されているレンズユニットは、レンズ

単体の薄さや複雑形状化が追求されており、代表的な製造方法である射出成形に要求される難易度も格段に高まっています。

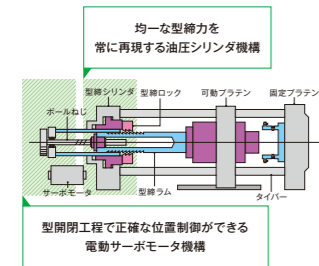
ソディックの精密射出成形機は、高安定性・高再現性・高歩留まりを可能としており、こうしたハイエンド市場のニーズの高まりとともに、販売台数を大きく伸ばしています。今後も拡大が予想されるこうしたハイエンド市場のニーズにソディックは、超精密加工技術で応えます。

## V-LINE® 射出成形機 GL60-LP

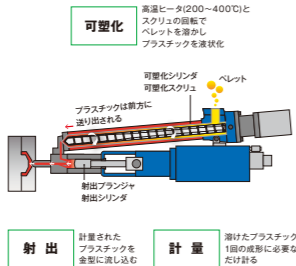


### プラスチック射出成形機の 2大独自機構

#### 電動ハイブリッド直圧型縮



#### V-LINE®



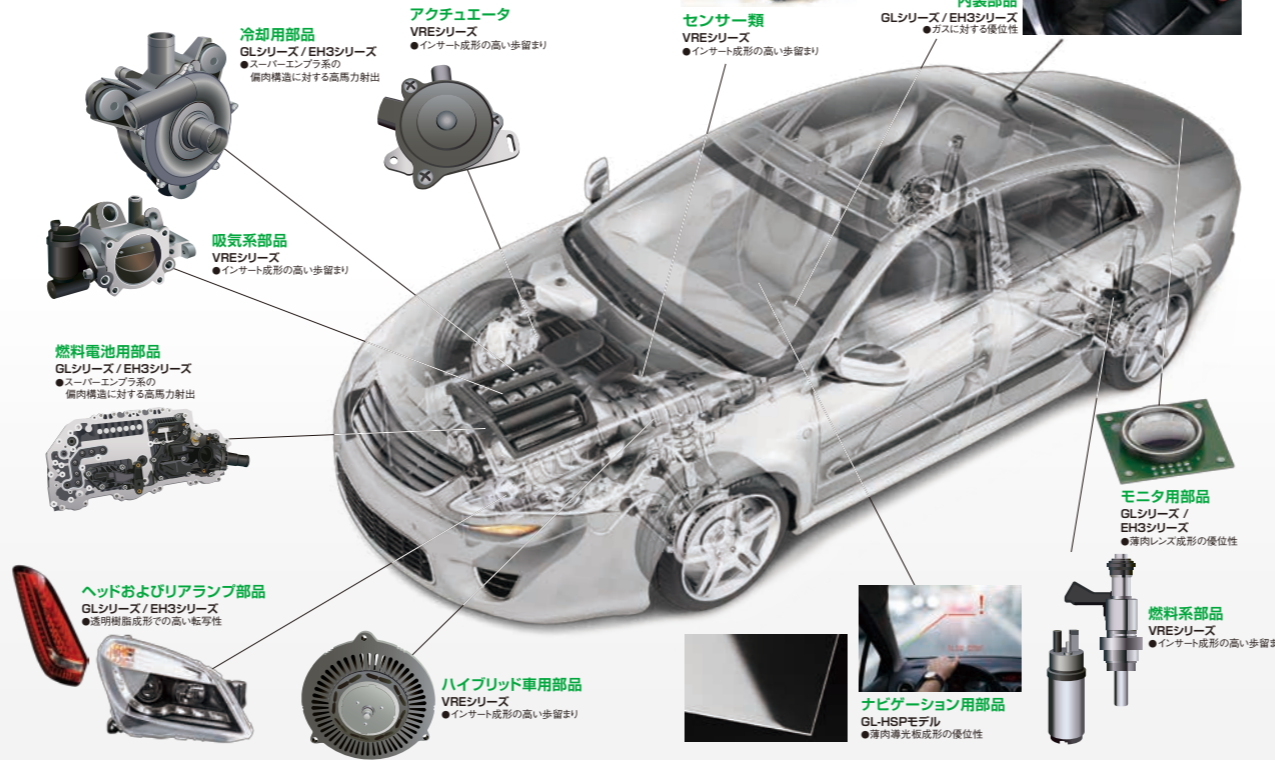
コンパクトカメラやスマートフォンで採用されているレンズユニットは、光学設計された非球面レンズを複数枚重ねることで構成されています。レンズユニットの製造では、複雑な形状を安定的・高品位に実現できる精密加工技術が求められます。

最近ではカメラの画素数が向上してきており、1台のカメラに複数のレンズが搭載されるため、より薄いレンズが求められています。このようなレンズの成形において当社成形機の強みを発揮できています。



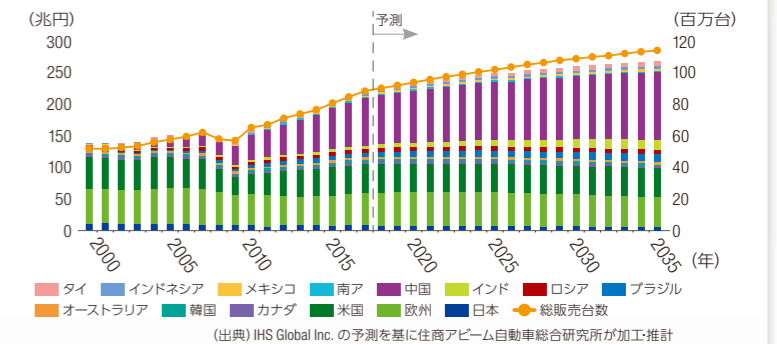
### V-LINE® の高い生産性が貢献する プラスチック製自動車部品

特に成形部品の歩留まりを重視される自動車関連では、当社のV-LINE® 射出成形機にご好評をいただいています。

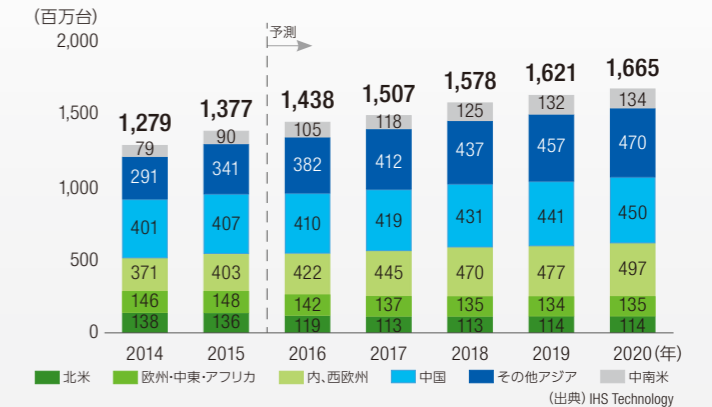


### 高精度プラスチック成形品へのニーズが高い 自動車市場、スマートフォン市場は今後も拡大傾向 当社の高精度機のニーズも増加が見込まれます。

#### 主要国・地域における自動車販売台数・額の推移



#### スマートフォンの市場規模



特集

02

SPECIAL  
FEATURE

高精度加工、高品質な生産、トータルコストの削減を同時に実現

# 進化するプラスチック成形革命

## 生産性向上、リードタイムの短縮、コストダウンを実現する Sodick のソリューション

技術革新が目覚ましい自動車産業や家電業界、電気電子部品業界では、精巧・精密な金型へのニーズがますます高まっています。こうしたニーズに対し、ソディックが提案するのが、金属3Dプリンタ OPM シリーズと金属3Dプリンタで造形した金型専用の射出成形機「MR30」による、プラスチック成形革命です。

この新・生産システムは、プラスチック成形加工の重要ユニットである、金型の作り方を根本から変えるもの。さらに、金型製造から部品成形までをワンストップで行うことで、従来の生産システムではできなかった成形品の生産性向上、リードタイムの大幅な時間短縮、大幅なコストダウンを実現します。

### 金属3Dプリンタとセル生産システムを一体化

これまで、金型は多くの部品の組み合わせで成り立ち、それぞれの部品は複数の工作機械で加工し製造されているため、自動生産システムの構築は難しいと言われてきました。

金属3Dプリンタ OPM シリーズは、金属粉末を均一に敷き（リコーティング工程）、その金属粉末にレーザー照射を10回行い溶融・凝固させた後、高速ミーリングによる高精度切削加工を行います。これを繰り返し、工作物を3Dプリント（積層）します。複雑で自由度の高い立体形状の造形加工と、高精度の仕上げ加工が可能であり、OPM シリーズを活用した金型は基本的に一体化構造となるため、生産工程が極めて簡素化されます。

OPM350L では、最大造形物寸法（幅×奥行×高さ）を350mm×350mm×350mm、最大積載質量を300kgとし、同シリーズの OPM250L 対比で造形物体積2.7倍、造形物質量3倍の大型造形を可能としました。

また、パラレルモード機能を搭載し一台のレーザーを高速に制御することで複数箇所を同時に造形可能です。ヒューム回収能力を大幅に向上させることで、高品質を保ちながら高速造形を行えます。さらに、材料自動排出自動供給装置を開発、長時間連続自動運転を実現しています。

一方、MR30は、精密金属3Dプリンタ OPM シリーズにて造形



OPM250Lからサイズアップ  
プラスチック製品の金型づくりを変革する  
精密金属3Dプリンタ

## OPM350L



3次元冷却配管内蔵金型の  
能力を最大限に発揮する  
専用射出成形機

## MR30

した、3次元冷却配管内蔵金型（OPM金型）の能力を最大限発揮するために開発された射出成形機です。金型をカセット式に組み込み、金型交換時間の大幅な短縮を可能にします。樹脂成形時の冷却効果を最大限に引き出し、プラスチック成形品の成形サイクル短縮と、成形品の変形抑制や歩留まり向上を実現します。

世の中のものづくりが大きく変わる画期的な2つの製品の組み合わせにより、ソディックのプラスチック成形革命はさらに進化を遂げ、技術力でマーケットをリードします。

## 担当役員 Message

当社は、高精度な加工が求められる金型をターゲットに金属3Dプリンタの開発及び販売を行っており、昨年のJIMTOF2016にて従来の精密金属3Dプリンタ「OPM250L」からサイズアップしたOPM350Lを展示いたしました。より大きな造形物の加工が可能となったほか、造形速度も高速化し、性能が一段と向上しています。また、この金属3Dプリンタで製造した金型専用の射出成形機も併せて開発、当社が掲げるプラスチック成形革命をより進化させ、お客様の生産性向上に貢献してまいります。

専務取締役  
（マシニングセンター事業、  
ULT開発担当）

佐野 定男



### 3次元冷却配管内蔵 金型および 防水コネクタ成形事例

離型時の品質安定  
冷却時間の短縮

